

やさしい病害虫講座 41
 黒い煤(すす)の製造屋さん

木村 裕

木の葉や枝に黒い煤が着くのは、虫さんと菌さんの協働作業の成果です。両者の関係がうまくいくことが必須条件で、どちらかがさぼると煤の塊はできません。

協働者の一方は、口ばしがセミのように尖っていて、葉や枝から汁を吸う虫さんです。体の中で自分に必要な養分だけを漉しとり、不要になったものはお尻から排出しますが、それはすべて液体で固形物はありません。

虫さんにとっては甘い糖分は不要なようで、すべて？排せつされ、べたべたと粘り気があります。それが下の葉や枝に付着して少し光ります。アリさんがこの排せつ物の糖分を狙ってやってきますが、排出量が多すぎると運びきれずに葉上に残り、すす病菌の出番となります。

やってきた、すす病菌さんは、それを栄養源として繁殖を始めます。堆積した糖分量が多い

と煤の層も厚くなります。さらに、その上にゴミや埃がつくので葉はいっそう汚くなります。

すす病菌さんは植物体には直接の害を与えませんが、煤が葉全体を包み込むと、太陽光が遮ぎられて光合成が妨げられます。

アリさんやすす病菌さんと仲の良い虫さんは、アブラムシさん、カイガラムシさん、コナジラミさんです。ときにはグンバイムシさんも。

コナジラミさんは小さくて、扁平で葉にピッタリとくっつき、色も目立たないので発見にはかなりの経験が要ります。昆虫講座のコナジラミ類の号をみてください。

すす病対策としてはこれらの虫さんを退治することです。カイガラムシさんやコナジラミさんは種類によって防除適期が決まっていますので、防除はちょっと難しいかも。さらに皆さんがよく使うスミチオンやマラソンでの散布では効果は期待できません。

ころころ糞を排出する毛虫や葉巻虫、アオムシさんたちは、煤を誘発しません。

